

## RUBeC 演習

乙 脇 萌 乃

Moeno OTOWAKI

物質化学専攻修士課程 1年

### 1. はじめに

私は2018年8月18日から9月3日までの17日間、龍谷大学の留学プログラムのひとつである「RUBeC 演習」に参加した。アメリカ合衆国カリフォルニア州のバークレー市にある浄土真宗センターで、英語での発表に必要なプレゼンテーションおよび要項提出に必要なライティングスキルの向上に取り組んだ。また、現地企業訪問（Keysight Technologies 社）およびカリフォルニア大学デービス校（UC Davis）を訪問し、現地の企業、大学の様子について学んだ。受講期間中は2人の受講生とともにホームステイをさせていただき、アメリカの宗教事情や生活習慣について肌で感じた。

### 2. 参加目的

私が RUBeC 演習を受講した一番の理由は、英語力の向上である。私は国際学会に参加する予定は現時点ではないが、英語の論文を訳し発表すること、また修士論文の要旨を英語で書くことに不安を感じていた。2年前、グローバル人材育成プログラムに参加し英語でのコミュニケーション能力の必要性を感じた。その後、英語への過度な苦手意識は克服したものの、なかなか前進することはなかった。しかし、英語というツールを用いることによって自分の世界観が広がることを思い出し、自分の研究についても英語で様々な人に伝えられる能力を身につけたいと思い受講した。

### 3. 授業内容

#### 3.1 テクニカルライティング

テクニカルライティングでは、渡航前に作成した自身の研究内容に関する要旨を修正することを目的

に、英文法の授業を受けた。英語がもともと苦手であった私は前置詞や冠詞の授業で多くの感動を覚えた。以前は理解が曖昧のままその場の雰囲気ですべてだったので多々のミスがあったが、授業後の要旨訂正をしていた時は1箇所ずつ理解しながら訂正することができた。今後の英文作成には、なくてはならないスキルとなり、確実なスキルアップにつながった。

#### 3.2 プレゼンテーション

プレゼンテーションでは、渡航前に作成した研究発表のパワーポイントの修正および発表を目的として授業を受けた。英語プレゼンテーションの特徴は英語の発音・イントネーション・アイコンタクト・ジェスチャーであった。私が一番苦戦したのはイントネーションだった。日本語は「音の高低」によって判断するのに対して英語は「音の強弱」によって聞き分けられる。中学時代からアクセントは大切であることを学習してきたが、アクセントがあつていて初めてネイティブスピーカーに伝わることを実感した。また、専門用語の発音に苦労し、日本語では使わないような口の動かし方をするものが特に難しかった。しかし、現地の先生方は1単語ずつ言えるようになるまでご指導くださった。その結果、最終日のプレゼンテーション大会では自信をもって発表することができた。

### 4. 企業・指定校訪問

#### 4.1 KEYSIGHT TECHNOLOGIES 社訪問

KEYSIGHT TECHNOLOGIES は測定機器の製造会社であり、製品開発を行うにはなくてはならない企業である。短時間ではあったが KEYSIGHT TECHNOLOGIES を訪問し、『社員を大切にしている会社』に感動した。2年前にグローバル人材育成プログラムに参加した際も感じたが、アメリカの企業は社員を大切にするという考えがよく伝わってくる。KEYSIGHT TECHNOLOGIES ではフレキシブルタイム制を適用していた。フレキシブルタイム



図1 KEYSIGHT TECHNOLOGIES 社



図2 UC DAVIS

制とは、労働者自身が日々の労働時間の長さあるいは労働時間の配慮（始業及び集合の時刻）を決定することができる制度のことであり、日本にはなかなか受け入れがたいシステムであると感じた。しかし、家族と過ごす時間を大切にすることは万国共通で必要なことであり、他国との働き方の差を感じた。

#### 4.2 UC Davis 訪問

UC Davis は、カリフォルニア州デービス市に本部を置く、アメリカ合衆国アメリカ合衆国の州立大学である。100以上の学会を有する総合大学であるが、もとは試験農場から始まったことに由来し、農学が盛んな大学である。実際キャンパスは非常に広く、建物と建物との間隔や道幅も非常に広がった。施設見学等があまりなく、学生の姿をあまり見かけなかったのが大学に来ているという実感はわかかなかったのが残念だった。

#### 5. ホームステイ先での生活

私のホームステイ先の家族は、ホストファザーと

マザーの両方が料理を作ってくださり、滞在期間中の夕食は毎日異なるものだった。ホームステイ先では、食事の前に必ずお祈りをし、協会の友人とのピクニックでもお祈りをした。日常生活ではあまり感じなかったが、食事前のお祈りの時間にはいつも宗教の違いを感じていた。また、2週間の生活の中でホストファザーとマザーの日常会話に「ありがとう」という感謝の言葉が毎日飛び交っていることに感銘を受けた。私は当たり前のように「ありがとう」と言える大人になりたいと思った。

#### 6. おわりに

約2週間という短い時間であったが、自分の世界観を広げる良い機会に巡り合えたと思う。受講目的であった英語力向上は達成されたと感じているが、何もしないままではまた忘れてしまうと思う。英語論文を読むことを習慣化し、英語との距離が離れていかないよう今後も善処していきたいと思う。また、今回の渡航を許可し、いろいろな面でサポートしてくれた両親に感謝し、いつかサンフランシスコに連れていければと思う。